

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0773200563		
法人名	有限会社 秋桜		
事業所名	グループホーム虹の家		
所在地	福島県双葉郡浪江町大字立野字根渡183 (仮設・本宮市荒井字恵向121-6)		
自己評価作成日	平成24年10月30日	評価結果市町村受理日	平成21年10月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒970-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	平成25年3月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

仮設住宅の中でも地域とつながりながら普通の暮らしができるよう、様々な交流が持てるよう支援している。
入居者ひとり一人のその人らしさやこだわりを大切に、自分のペースで生活できるように支援している。
できること、好きなことを行って楽しみをもち続けながら生活してもらえるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

仮設の事業所として再開するにあたり、また、その後の運営でも県や町当局との連携を緊密に図っている。
職員は利用者に寄り添い、本人意向と思いを把握して家族と協議連携し、良好なチーム介護を行っている。
近所の散歩や買い物同行そして外食など、様々な外出支援を行い利用者の生活を生き生きとしたものとして支えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所 の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね 満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスに おおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設以来、その人らしさ一人ひとりの思いを大切にしたいケアの理念を共有し、振り返りを行いながら実践につなげている。	理念を記載した額を食堂内に掲示している。また、会議や内部研修、そして朝のミーティングで話し合うことで共有を図っている。更に、日常のケアを「振り返り」することで実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	仮設入居者の一人として、一世帯として地域とつながりながら暮らしていけるよう支援している。仮設の活動や行事に参加し交流したり、毎日の散歩の時等に住民の方と話をする等の交流をしている。仮設の方も時々来所してくれる。	避難先ということでゼロからの出発になったが、お互い同郷の仮設住民同士で、気持ちの通じる関係にある。地域内の清掃作業や集会所主催のイベントにも積極的に参加して、地域との交流は避難前より活発に行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	仮設での事業を開始してからは、認知症の理解を含め、地域の人々に向けた地域貢献の機会は今のところないが、今後は少しずつ行っていきたいと考えている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	浪江町では継続して開催していたが仮設に来てからは休止し行っていない。市町村担当者と話し合い11月より会議を開始することで進めている。話し合いの中で率直な意見をいただきサービス向上に具体的に活かしていきたい。	全町避難という混乱を乗り越えて、仮設施設で再出発した。運営推進会議は地域包括センターや町の担当メンバーも新たに11月に再開した。仮設住民を加えた避難訓練の実施を予定している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	グループホーム型仮設開設準備段階から様々な点での連携を欠かさず行ってきた。開所後も仮設での実情、設備面の問題などを伝え市町村を通して解決し、連携をとり協力を得ながら運営に取り組んでいる。	仮設での開所準備を県や市町村との連携を緊密にして行なわれた。開設後も利用上の問題点については町を通じて解決を図っているなど、町との連携は密接に行われている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部、内部研修で身体拘束について学んでいる。身体拘束をしない重要性を認識しケアを実践している。	身体拘束をしないケアについてはグループホーム協議会や県の研修会に参加し、内容については内部研修を行い、実践に活かしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての内部研修を実施した。虐待にはあたらないうが、不適切なケアではないか日常的に疑問を持ちながら、見過ごされることがないように話し合いの場を持ちながら虐待のないケアにあたっている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見制度を利用している入居者がおり管理者は何度か相談を受け支援をしている。制度について管理者は学ぶ機会を持っているが職員にも内部研修を行い理解してもらった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事業所の理念や重要な事項を十分に説明し、家族の意向もきちんとかがい理解納得の上で契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族には事業所に対する要望を折にふれうかがい、職員に伝えると同時に運営に反映するようにしているが外部者へ表せる機会は設けていない。	利用者の家族の面会時や電話時に意見や要望を聞いている。利用者の食事管理や趣味の作業量などに反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体での会議、毎日のミーティング時の他、個別に職員の率直な意見、提案を聞き運営に活かしている。	毎日のミーティングで職員間から聞き取り、実践に反映するよう努めている。また、個別にも日ごろから意見、提案を聞き取っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年齢や経験、資格を考慮した給与を設定している。避難生活のストレス軽減のためや私事都合での年休がとりやすい人員配置をし、勤務の交換もいつでもできるよう配慮し働きやすい職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアの質を高めるための内部研修の他に、職員のそれぞれにあった外部の研修参加も計画的に進めている。現在、資格取得を目指している職員も複数いる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協議会主催の研修の参加や他のグループホームとの情報交換を行う、訪問するなどしサービスの向上に努めている。県中地区のグループホームと相互に職員の交流研修を行う予定もある。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の訪問調査を含め、入居者に聞き取りをすると同時に日常の様子から本人の不安や要望を受け止め把握し、安心して生活してもらえるように努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現在の家族の現状を把握し、要望を傾聴している。入居後も連絡をとり合い良い関係づくりを大切に、信頼関係の構築に努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の意向を知るとともに、本人はどんな生活を望んでいるのかをチーム全体で把握に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の生活のペースや思いを大切に、できることは自分から行ってもらい「共に生き合う」支援をしている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	浪江にいた時と変わらず、本人の日常の状況について率直に話し合いながら、家族と共に本人を支える関係を持つようにしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住み慣れた環境を離れて仮設での生活ではあるが、友人の仮設を訪問したり、親せきの借り上げ住宅へ泊るなど、以前と変わらない関係を保っていくことができるように支援している。	故郷を離れた仮設住まいという状況だが、隣の市になじみの人がいると月1回ほどの訪問を行い、馴染みの人との関係継続を図っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その人らしさを大切にしながら利用者同士の関係を理解し、穏やかに生活できるよう支援している。孤立しがちな入居者についてはスタッフが配慮しながら支えかわりを持ち、支援できるよう努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了した利用者の家族とも連絡をとり合い退去後の状況を聞いたり、相談を受けている。現在も関係を大切にしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何よりも一人ひとりの思いやペースを大切にケアに取り組んでいる。本人の思いの把握が困難でも、日常の様子を深く観察し意見を出し合うことで本人の思いを見逃さない取り組みをしている。	話をしても本音は異なる場合もある。利用者のつぶやきは聞き逃さないようにし、また、しぐさにも気をつけ、本人の思いとは何かを常に注意して思いと意向の把握を心がけている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの聞き取りや、普段の会話の中から、何を大切に生きてきたのかを知り、日頃のケアに生かしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりに寄り添い、普段の暮らし本人のペース、生活のリズムを大切にしながら、今できること、能力を大切にした支援をしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の介護に対する意向をそのつど確認している。また、チームで話し合い「どんな生活を望んでいるのか」を考え、本人の意向を大切に計画を作成している。	モニタリングで本人の意向を把握するなど常に家族と協議し、本人の思いに添った介護計画を作成している。現状に即した介護支援をチームで行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録や日誌に日々の様子や気づきを記入し、情報を共有しながら、よりよいケアや介護計画の見直しに生かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望に応じて柔軟に対応し、支援している。家族との外出、友人の仮設への訪問送迎など。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	仮設の行事や集会所での催しにはできるだけ本人の希望を聞きながら参加している。又、本宮市の催しにも参加し、仮設の生活でも普通の暮らしを楽しめるよう支えている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	仮設での再開後は本宮市の医療機関に協力医療機関になっていただき、かかりつけ医として適切な医療を受け連携をとり相談できる体制ができている。	家族はほとんどが遠方での生活のため医療機関への受診支援は職員で、月1回行っている。協力医は施設を訪れて利用者の生活環境を認識し、事業所と良好な関係を築いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職はないが職員と准看護師と連携、相談の上適切な受診や日常の健康管理ができるように支援している			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	震災前は病院との関係が良好に作られ情報の交換や早期退院に向けての相談等も気軽に行われていた。仮設での事業再開後は入院の事例はないが、以前のような関係をつくっていきたくと考えている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	震災前より家族とは重度化や終末期のあり方について話し合う機会を設けてきた。現在は避難生活ではあるが、現状を話し今後についての話し合いを進めていくようにしたいと考えている。	食事が可能であればギリギリまでの支援を行ってきたが、これまでは看取りを行ったことはない。入所時に家族に説明し、共有を図っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時マニュアルに添って対応し、話し合いながら見直しも行ってきた。応急手当も講習を受けてはいるが、実際の場面でも対応できるかどうか不安な点はある。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時に対応し避難誘導マニュアルを作成し、年3回の夜間を想定した訓練を行っている。今後は同仮設の住民の方々との協力体制を徐々に整えることができればと考えているが今のところ実践はできていない	年3回避難訓練を実施している。その内の1回は消防署の協力を得て消火訓練も行っている。災害に備えてパンの缶詰や冷凍食品の数日分の備蓄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの誇りを尊重した言葉かけに努めている、トイレや入浴の介助では尊厳を保った対応を職員間で振り返りを行いながら実践している。	本人の自主性を大切に、さりげない対応で利用者の尊厳とプライバシーの確保に努めている。特にトイレでは周囲に聞こえない言葉をかけそれとなく誘導している。会議時に職員間での状況を振り返り、対応の向上に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の意思が表出できるよう日常生活の中で自己決定の場を努めてつくっている。意思の表示ができない方については観察し、本人のほんとうの意思や希望を推測し感情を大切にしながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしさ、一人ひとりのペース、その人の思いを大切にしたい支援を日々行っている。本人がどう過ごしたいかを考え、入居者に合わせ支援を実践している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着たい洋服を自分で選んだり、少し化粧をしたりヘアクリームをつけたり髪飾りをつけ整えたり、ネイルセラピーも取り入れるなどその人らしいおしゃれを楽しめるよう支援している。仮設では、ボランティアの理美容師さんに来てもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付け等は入居者ができる場所は行ってもらっている。食事は利用者の中に職員が入り会話しながら一緒に楽しく食べ、食べるのが遅れがちな入居者のペースにも合わせて一緒に食べるようにしている。	メニューは利用者の希望を聞きながら1~2週間分を作成。下ごしらえと片付けにはできるだけ参加してもらっている。イベント時の弁当や回転ずしの外食など、楽しい食事になるよう支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事状況や量を把握し、食べる量が少ない利用者については、充分確保できるよう声をかけたり、時には別のメニュー（好物、外食）を考えるなど工夫している。食事や水分摂取量が少ない方については記録し把握しながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後実施している。できるだけ本人に行ってもらい、支援が必要な場合は、見守りや声かけ、時には一部介助を行っている。声かけや介助が必要な方にはその人に応じた口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握に努め、表情やサインを見ながら一人ひとりに応じた支援を行っている(パットの大きさを変えていくなど)又、プライバシーの尊厳を大切にしながら支援している。排泄パターンの把握にセンター方式も活用している。	一人ひとりの排泄パターンのチェックをもとに自立支援に心がけている。手伝いが必要な利用者に対しても最低限の手助いで、様子を見守る支援に全員で心がけている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維の多い食物、毎日乳製品を摂取し、水分も多めに補給し記録している。散歩、廊下歩行など適度な運動にも心掛けているが十分とは言えない。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	状況や希望に添って支援している。時間帯は午後2時以降と決まっているが、その中で個々に声をかけ、入浴の順番などもできるだけ希望に添ったかたちで支援している。	毎日希望のタイミングで楽しく入浴出来るよう支援している。体調が許す限り、少なくとも二日に1回以上は利用できるような支援体制を築いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	好きな時に好きなよう休んでいただき、一人ひとりの生活リズムを大切に支援しているまた、。気持ちよく休めるようリネン交換、空調など環境整備にも配慮している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの身体の状態や変化の把握に努めている。薬についても処方箋より確認理解するようにしているが、十分とはいえないため、理解、認識を高めていく必要がある。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	台所の手伝い、縫い物、手芸など力量にあった役割が持てるよう支援している。一人ひとりに寄り添い笑顔が出る支援を心掛けている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩では仮設の人々との触れ合いを大切にしている。また、買い物や外食などでは一人ひとりが外出を喜び楽しめる支援を行っている。時には、他の仮設の友人宅を訪問したり家族と外出したりと気分転換を図りながら生活できるような支援もしている	天気の許す限り近所の散歩に出かけている。近所の仮設住宅には子犬や子猫のペットエリアもあり、触れあいや花壇の花を觀賞しながらの会話を楽しむなど豊かな外出支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を持ち、お金を持って出かけ、買い物をする楽しさ 嬉しさを味わっている。自分で所持できることで安心してもらっている。自分でお金を持ってない方については本人の希望や家族と相談しながら、欲しいもの必要なものを購入する支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	申し出があった時にはいつでも応じられるよう支援している。申し出がない時も声かけてみて電話をしてもらい安心してもらうこともある。プライバシーに配慮し居室内で電話してもらうこともある。短い文章であっても職員の支援で絵手紙などのハガキを出すこともあった。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	仮設型グループホームではあるが、絵画や行事の写真を飾り、居室には季節ごとに折り紙などで装飾し、季節感生活感を採り入れて居心地の良い空間の中で過ごせるよう配慮している。	仮設の事業所だが、共有空間はすべて木材でつくられている。天窓からの優しい採光によって温もりのある空間となっている。利用者と職員がつくった押し花や絵手紙などの行事の楽しい写真も飾り付け、居心地よく過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングテーブルに一人ひとりの椅子以外にこたつやソファコーナーがありゆったりと過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切に本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。 (グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。 (小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている。	仮設であり、始めは着の身着のままの避難であったため始めはなじみの物はほとんどなかったが、一時帰宅で本人にとって大切なものはほんの少しではあるが持ち帰ることができた方もいる。本人の意向を尊重し、ひとり一人がその人らしく暮らせる部屋になるようにしている。	ログハウスの居室には一時帰宅で持ち帰った貴重な思い出の品が大事に持ち込まれている。いずれも利用者のなじみのもので、部屋でなごめるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差はほとんどなく安全に生活してもらえるつくりになっている。廊下だけでなく、各所に手すりがあるが、歩行不安定な方も多いため安全に生活できるよう支援している。		